

PREVIEW

CRANCHI 78 SETTANTOTTO

「CRANCHI YATCHS(クランキ)」の新たなフラッグシップとなる「78 Settantotto(78セッタントット)」が、今年2020年1月のドイツ、デュッセルドルフボートショーでデビューした。シートライアルを含めたワールドプレミアはカンヌヨットフェスティバルの予定だったが、Covid-19禍の広がりからカンヌのフェスティバルは中止に。とはいえマーケットデビューを果たしているスーパーヨット「CRANCHI 78 Settantotto」、全長25.15m、全幅5.76m、興味は尽きない。

text: Kenji Yamazaki photo: CANTIERE NAUTICO CRANCHI www.cranchi.com





"A new Dimension of Beauty"

アートフルな造形にサルトリアーレのインテリア、そして3基のVOLVO PENTA IPS1350 ヨットデザイナー界の鬼才Christian Grandeが魅せる「CRANCHI」の次世代エレガンス

「CRANCHI Settantotto (克蘭基 セッタントット)」、Settantottoとはイタリア語で「78」の意だ。だがこれはCRANCHI特有の控えめな表現。78と表しつつ、実測長は25mを超える。

「Settantotto」のプロジェクトは5年前に始まった。CRANCHIの創立150周年記念を期してのレジェンダリーなプロジェクトだ。エンジニアリングはCentro Studi Ricerche Cranchi、ハル設計はAldo Cranchi。インテリア&エクステリアのデザインは注目のChristian Grandeだ。

エクステリアを見てみよう。ハイトェック且つエレガントなクリスタルシルバーのハル、スリークで伸びやかなフォルム。ハルサイドのブラッ

クアウトされた舷窓のシャープなライン。フロントウィンドウからブラックアウトされたサイドウィンドウに流れる大胆な造形。シルバーのルーフとカーボンブラックのフライブリッジ。全てがアフトゾーンに流れ、流麗に収束する。そのスタイリングは見事にバランスの取れたスポーティでエレガントなたたずまいを見せる。

Christian Grandeは、「Settantotto」のインテリアにイタリアの4つの都市のイメージを提案した。ミラノのハイトェックと夜行のノクターン、ヴェニス大胆さと奔放、ローマのクラシック美、シラクサの光ときらめきのエッセンス。それぞれを、オーナーはゾーンごとの展開を含め

好みのインテリアとして選択できる。美神の王国イタリアの神髄を導き出すかのごときだ。

*

アフトのガレージを開けるとそこはビーチクラブ。広大なスイミングプラットフォームはシートイと海へのアクセスを容易にする。両脇からメインデッキのcockpitへ。ソファ、ウッドテーブル、デザイナーズチェア、サードステーションが用意される。チークフロアは両サイドのキャットウェイからバウまで繊細な趣で敷かれている。

サロンに入る。スターボードサイドにゆったりとベージュのブランドソファが並ぶ。深いブラウンのフローリング。素材はローベレ。ウォールとルーフは淡いブラウンと濃いブラウンのトーンコントロールがなされている。低い位置のサイドウィンドウ。ソファに座ると視線の先に海が広がるのだ。ポートサイドにはAVユニット収納ストレージとキャビネットがある。サロンソファ前方には8名用のディナーテーブル&チェ

アがセットされている。チェアは鮮やかなオレンジ。特注ブランドのサルトリアーレ (フルオーダー)、その主張。サロン前方にはフル装備のクロズドギャレーがある。ギャレー前方スターボードにヘルムステーションがある。ヘルムのポート側にはダイネッティ。ギャレーのスターボードサイドにはキャットウェイへのパンタグラフドアがある。このドアにはヘルムからもイージーアクセスできる。

ヘルムステーションはコンソールの3面のGARMIN 22インチディスプレイを中心にシステマチックにレイアウトされている。この3面のディスプレイは、動力、電気、エアコン、GPSレーダー、航海計器の全てをモニタリングし、管理表示している。ウッドのステアリングホイールの右には3基のVOLVO PENTA D13エンジンのコントローラー、スラスター、オートマティックマニニューバパネル等がレイアウトされている。1枚ガラスのワイド&ビミーなフロントウィンドウ、前方左右の視界の確保は約束されている。後部はギャレーゾーンで見えないが、後



部視界はCCDディスプレイで確認となる。ギャレーのポートサイドにメインフロアのトイレットが用意される。

再び外へ。パウデッキには極上のリラクゼーションゾーンが展開する。オーニングを張ればビーチングでのステイが更に豊かになる。オーディオコントローラー、冷蔵管理のドリンクホルダー、ソファやサンベッド、どこでも好みのドリンクでリラックス可能だ。

アフトコクピットのポートサイドからフライブリッジへ。オールチークの広大なフロア、アフトにはサンベッドチェアが並び、中央には、スターボードサイドにリラクゼーションソファがリゾートを演出。ポートサイドにはバーエリアがある。BBQグリルにウェットバー、冷蔵庫、製

氷機、ワインキャビネットが用意される。ポートサイド前方にヘルムステーション。2面のディスプレイ、エンジンコントローラー等が整然と並んでいる。フライブリッジユニットとオープンなルーフトップはステイ共にカーボン製だ。

サロンのディナーテーブルのポートサイドから、ロアフロアへのラダーがある。ロアフロアへ。4ステートのナイトエリアは明るくモダン。4つの都市の提案からの設えが展開される。パウサイドにはモダンなVIPルーム、両舷にゲストステートがそれぞれトイレットとパウダールームをもって展開する。ミジップにはエレガントで明るい4つ星ホテルのスイート以上の設えを誇るフルビームのオーナーズステートがある。

ポートサイドのキャットウェイ中央にはクルールームへのアクセスラダー。ヘルムを含め随所に、ゲストと接しない導線が引かれている。両舷にそれぞれ2段ベッド、シンク、冷蔵庫、ワークデスクとディスプレイゾーン、2機のウォッシュ&ドライが用意される。エンジンルームへのアクセスもイージー。このクラスになるとクルー数名は必須だ。

*

「CRANCHI 78 Settantotto」のキャラクターは明確だ。インテリア、エクステリアのスタイリングは斬新さと最新モードを取り込んだ次世代のエレガンスの提案だ。ハード面でも最新素材を積極的に大胆に活用する。カーボンファイバーをストラクチャーとスーパーストラクチャー上部構造物に採用。更にケブラーとビニルエステル樹脂の3種の素材を随所に使用。カーボンは、ハルはもちろん、フライブリッジユニット、5,920Lのフューエルタンクなどに採用。計量化と剛性アップを徹底的に試みた。プロパルジョンはVOLVO PENTA IPS最強のD13-IPS1350

を3基がけ。ハル設計もIPS1350の1,000馬力×3基を念頭にデータ解析され、スポーティなマニューバビリティ、快適性、高燃費、低振動、静寂性を保証する。10ノット-1,000rpm-燃費62L/h、クルージング速度23ノット-2,000rpm-358L/h、最高速33ノット-2,450rpm-540L/hを約束している。

*

CRANCHIの歴史を振り返ってみる。ミラノの北に宝石のような湖がある。かつては貴族たちやセレブリティたちデレタントのリゾートとして栄え、今もその趣を色濃く残すコモ湖だ。その中部Bellagioで1870年、Giovanni Cranchiが小さな造船場を始める。以来5世代にわたり、コモ湖でボート造りに勤しんできたクランキー族の「CANTIERE NAUTICO CRANCHI」。今年で150年の歴史を誇る、世界最古の一つに数えられるボートビルダーだ。

2000年からは北部Nogaroに近代的なファクトリーを持つにいたる。





今では年間500艇を世界にデリバリーする。コモ湖畔で生まれ、アドリア海側San Giorgio di Nogaroのテストセンターで調整を受けて世界にデリバリーされる。日本ではリビエラ逗子マリーナとシーボニアマリーナを運営するリビエラリゾートがインポートを開始したのが2015年、すでに13艇が湘南の海にいる。

あらためてCRANCHIのラインナップを見てみる。「CRANCHI 78 Settantotto」をフラッグシップに、フライブリッジシリーズは「E52F-Evoluzione」、 「E56F-Evoluzione」、 「60FLY」の3艇種。HTクラスは「M44 HT」、 「E52S-Evoluzione」、 「60ST」、 「60HT」の4艇種。クルーザー

クラスは「Z35」の1種。デイクルーザーは「Endurance 30」に、新たに「E26 Classic」と「E26 Rider」がニューモデルデビューしたばかりの3艇種。アウトボードクラスは「Panama 24」の1種。エコトローラークラスは「Eco Trawler 40 Longdistance」、 「43」、 「53」に「55」もデビューを果たし、更に「T36 Crossover」の5艇種をそろえる。なんとCRANCHIは、18艇種を建造し世界にデリバリーする、イタリアを代表するビルダーなのだ。

CRANCHIは、「Settantotto」というラグジュアリースーパーヨットを持つことで新たなステージに立った。更にブランドの進化を見せることになるだろう。新たなメディテレーニアンブリーズをもたらす「CRANCHI 78 Settantotto」が、湘南の海に浮かぶ日を夢見るばかりだ。 *P.B.*



CRANCHI 78 Settantotto

全長 25.15 m
全幅 5.76 m
重量 57.00 ton
エンジン 3×VOLVO PENTA D13 IPS1350
最高出力 3×1,000 HP
燃料タンク 5,920 L
清水タンク 1,250 L
デザイン Centro Studi Ricerche Cranchi
アートディレクション Christian Grande
ハルデザイン Aldo Cranchi
デザインカテゴリ A
問い合わせ先 リビエラリゾート リビエラ逗子マリーナ
TEL: 0467-24-1000
www.riviera.co.jp/marina/sales/



YouTube



YouTube